

環境経営レポート



有限会社 飯田製作所



福島第2工場

太陽光発電システム（自家消費）・355.6kw



横浜本社



福島工場

太陽光発電システム49.5kw（売電）

2022年度（対象期間 2022年4月～2023年3月）

発行：2023年5月29日

1.事業活動の概要

- 1-1. 会社概要（対象範囲 事業の規模）
- 1-2. 沿革
- 1-3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

2. 環境経営方針

3. 今までの環境目標と今期実績及び評価

- 3-1. 環境目標と今期の実績及び達成状況（共有活動実績）
- 3-2. 環境経営計画実績と評価

4. 過去の実績との比較

- 4-1. 二酸化炭素排出量の削減比較
電気・ガソリン等・ガス使用量の削減比較
- 4-2. 産業廃棄物排出量の削減比較
水使用量・化学物質の削減比較

5. 全体の活動内容

- 5-1. 省エネ・節電対策取り組み
- 5-2. 自然エネルギー活用 太陽光発電実績
- 5-3. ガソリン使用量削減取り組み
- 5-4. 水使用量削減
- 5-5. 産業廃棄物削減取り組み
- 5-6. 化学物質削減取り組み
- 5-7. 防災訓練（AED取扱い教育）
- 5-8. グリーン活動
- 5-9. 社会貢献活動・表彰

6. これからの環境目標と次年度取り組み

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

8. 代表者による全体評価と見直し

1. 事業活動の概要

1-1. 会社概要（対象範囲・事業の規模）

- ☐ (有)飯田製作所 福島第2工場（工場統合）

有限会社飯田製作所 / 1964年

- ☐ 資本金

5,000万円

- ☐ 代表者名

代表取締役社長 野渡 透一

- ☐ 認証登録範囲

本 社 （E A 2 1 認証登録：取得日 2015年8月 番号0002817）

〒245-0018 横浜市泉区上飯田町823番地

福島工場 （E A 2 1 認証登録：取得日 2008年8月 番号0002817）

〒969-1203 福島県本宮市白岩字埋内120-2

福島第2工場 （E A 2 1 認証登録：取得日 2010年8月 番号0002817）

〒969-1204 福島県本宮市糠沢字水上21-2

- ☐ 環境管理責任者

渡辺 隆 （加工技術課 課長）

- ☐ 連絡先

福島第2工場

電話 0243-64-2320 （代表）

FAX 0243-64-2571

HP <https://iidaf.com/>

- ☐ 事業内容

輸送機器部品製造（フッ素樹脂、エンジニアングプラスチック）

- ☐ 事業活動（認証登録範囲）

産業機械・自動車用の樹脂製パッキンシール、オイルシール等の製造

- ☐ 事業規模（2022年度）

工場	従業員数	敷地面積（㎡）	延べ床面積（㎡）	生産金額	生産個数	備考
横浜本社	2名	1,227	466	—	—	LAB
福島工場	0名	5,800	1,920	—	—	休止中
第2工場	177名	14,200	2,407	24億円	1,151万個	主要工場

※2023年3月31日現在

1－2. 沿革

昭和35年10月 創業者 野渡清利

横浜市戸塚区（現在横浜市泉区）に野渡精機製作所を創業。

昭和63年01月 福島工場操業開始。

平成元年12月 福島工場 第2棟増築。

平成10年11月 福島工場 第2棟増床増築。

平成17年06月 福島工場 管理棟増築。

平成18年06月 福島工場 第2棟増築。

平成20年09月 福島第2工場 竣工・操業開始。

平成24年08月 福島第2工場 2棟 増築・操業開始。
太陽光発電97KW設置。

平成27年10月 福島工場 太陽光発電システム設置 容量：57kw

令和2年6月 福島第2工場 3棟 増築・操業開始。
太陽光発電97KW設置。

令和2年8月 福島工場が福島第2工場へ集約
（福島工場 稼働停止）

本社 LAB室

本社



福島工場



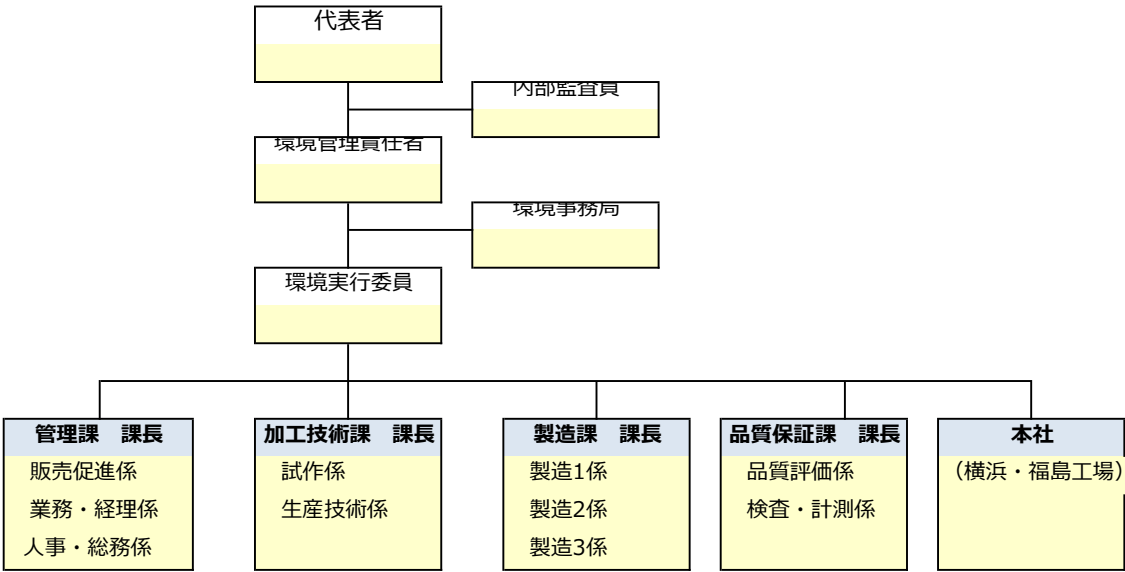
福島第2工場



福島第2工場



1-2. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認 ・課題とチャンスを整理し、明確化する ・効果的で必要十分な実施体制を構築する
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
環境実行員	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査員	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性の自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

2. 環境経営方針

【基本理念】

企業理念に基づき全ての業務を通じて省エネ、省資源、
リサイクルの推進、廃棄物削減を自主的、継続的に推進し
SDG s 活動の趣旨を意識し、地球環境の保護に努める。

【行動方針】

1. 製品製造に関わる環境側面のうち、次の項目を
環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素の排出量削減
照明や空調等を見直し、製造・工場設備の省電力・効率化をする
*管理時間見直し、遮熱・排熱管理で廃棄エネルギーの減少化検討
 - (2) 廃棄物の排出量削減
廃棄物の分別収集を徹底し、資源のリユース・リサイクルをする
 - (3) 総排水量の削減
水を効率的に利用する為に設備等の工夫・メンテナンスをする。
2. 関係する環境関連法規を遵守します。
3. 化学物質の削減及び、適正管理に努めます。
4. 環境負荷軽減することが当然であるとの認識してもらえ
る機会を設け社員と共に働きがいのある職場づくりに努める。
5. 環境方針は全従業員に周知させるとともに、実施している
取り組みをホームページ等を通じ判り易く社外へ公表します。

改定 2023年4月1日

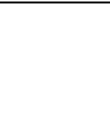
有限会社 飯田製作所
代表取締役社長 野渡透一

3. 今までの環境目標と今期の実績および達成状況

環境方針	環境目標	単位	年度	実績		
				2020年度 (基準年度)	2021年度	2022年度
二酸化炭素の 排出量削減	二酸化炭素の 排出量削減	t	目標	1,538	1,528	1,294
			削減率	—	—	△17%
			実績	1,559	1,327	1,340
			原単位 t-CO ₂ /万個	0.15	0.109	0.12
			達成状況	未達成	達成	未達成
	電力使用量の 削減	kwh	目標	—	—	—
			削減率	—	—	—
			実績	2,879,961	2,814,984	2,865,398
			原単位 kwh/万個	278	232	259
廃棄物の排出量削減	廃棄物等 総排出量削減	k g	目標	178,977	136,504	135,125
			削減率	—	—	△2%
			実績	137,883	178,623	153,115
			原単位 kg/万個	13	15	14
			達成状況	達成	未達成	未達成
	廃棄物の リサイクル向 上	%	目標	—	—	—
			向上率	—	—	—
			実績	9.2%	21%	46.5%
			達成状況	—	—	—
総排水量の削減	水使用量の削減	m ³	目標	1,947	1,927	1,908
			削減率	—	—	△2%
			実績	1,830	1,982	1,996
			原単位 m ³ /万個	0.18	0.16	0.18
			達成状況	達成	未達成	未達成
化学物質の 削減及び、適 正管理	化学物質使用 量の 適正管理	k g	目標	377	373	369
			目標	—	—	△2%
			実績	377	549	257
			達成状況	達成	未達成	達成

※2020年8月に福島工場から第2工場へ生産設備を移管した為、2020年度の実績から福島工場、第2工場、本社を合算見直しています。
 ※二酸化炭素の排出量目標について、2021年度に大幅に目標を達成していることから、削減率目標の見直しを行っています。
 ※2022年度より、生産変動によって達成目標に左右されるため、総量型目標と原単位で評価します。
 ※2022年度より、産業廃棄物総排出量削減の達成目標にリサイクル率の目標を追加しました。

3-1. 環境経営計画取り組みと評価

環境経営方針	取り組み事項	実施内容 実施：○ 検討要：△ 未実施：×	評価	SDG s
二酸化炭素の 総排出量削減	電力消費量の削減	節電活動の推進 廃熱利用・こまめ消灯・温水器利用停止・ 設備の不要電源OFF・電気機器不要見直し	△	    
	設備効率運転維持管理	コンプレッサー定期 オイル・エレメント フィルター清掃交換	○	
	空調の老朽化更新	1棟空調の空調更新 (部品調達できず次年度延期)	×	
	エアコン・空調効率運 転による電力削減	冷房運転 コンティニューム導入	△	
		冷房運転 室外機冷却（散水テス）	△	
		食堂窓の断熱（エアキャップ設置）	○	
	電気機器の適正化によ る消費電力削減	自動販売機撤去・冷蔵庫利用停止	○	
	自然エネルギー活用	太陽光発電システム点検・増設	△	
	ガソリン燃料の削減	社有車の運行管理（走行距離記録） エコドライブ指導（ポスター掲示）	○	
		在宅勤務推奨による燃料費削減	○	
産業廃棄物総排出量 の削減	産業廃棄物の分別によ るリサイクル化	マニフェスト管理と産業廃棄物の 総量削減	△	
		コピー用紙、新聞、雑誌、カタログ、 パンフレットリサイクル実施	○	
		廃プラ埋め立て➡RPF全面切り替え	○	
		廃プラ材のリサイクル拡大	○	
		ペットボトルキャップリサイクル ※ポリオワクチンに貢献	○	
	不適合品廃棄削減	成型工程の異物不良改善実施 加工工程の落下不良改善実施	○	
総排水量の削減	水使用量の削減	水道メータ検針（毎日）による使用量 の把握	○	 
		流し台・流し台・野外水道・冷却等の 水漏れ点検実施	○	
	雨水利用	雨水の再利用検討（室外機冷却利用）	△	
関連する環境法遵守	環境法令順守	法とりまとめ表による点検実施・定期 巡回点検	○	
化学物質削減及び適 正管理	化学物質削減	溶剤再生機導入による削減（廃棄物削減）	○	 
	適正管理	化学物質の把握	○	
環境方針の周知	社員への周知	環境方針のカード配布・毎月環境実績 報告、新人教育実施	○	

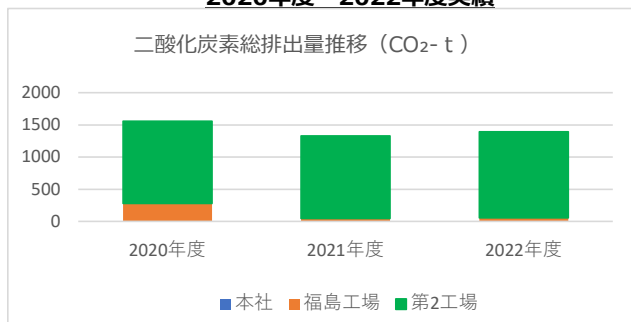
4.過去の実績との比較

4-1.二酸化炭素排出量の削減実績

項目	単位	↑ 100%以上 → 60%以上 ↓ 60%未満			
		目標値	実績	達成度 (%)	
二酸化炭素総排出量	CO ₂ -t	1,294	1,340	97%	→
電気使用量	kwh	前年度実績 2,814,984	2,865,398	前年比 98%	→
原単位	CO ₂ - t / 万個	前年度実績 0.107	0.121	前年比 88%	→
生産個数	万個	前年度実績 12,129	11,054	前年比 91%	→

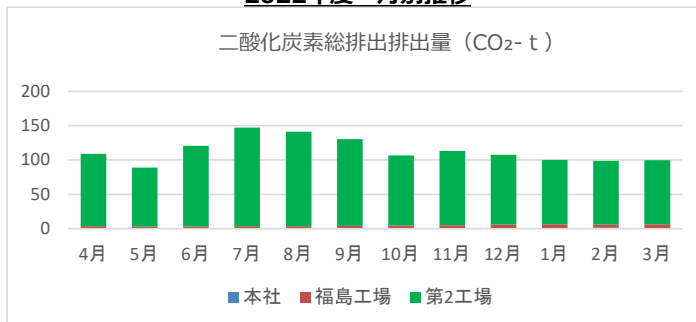
※CO₂原単位評価追記

2020年度～2022年度実績



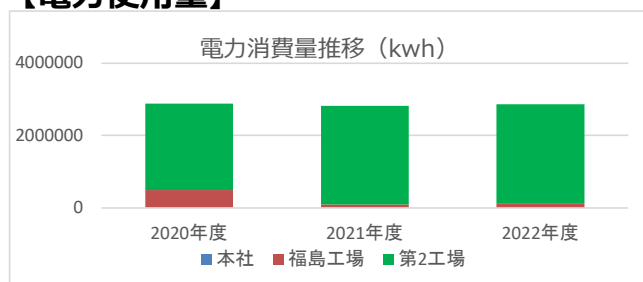
■2020年8月 第2工場3棟増築し福島工場統合。

2022年度 月別推移

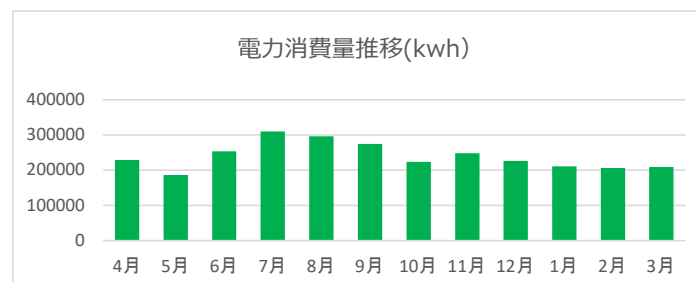


■福島工場の下期から保守点検で電力消費でCO₂が増加している。

【電力使用量】

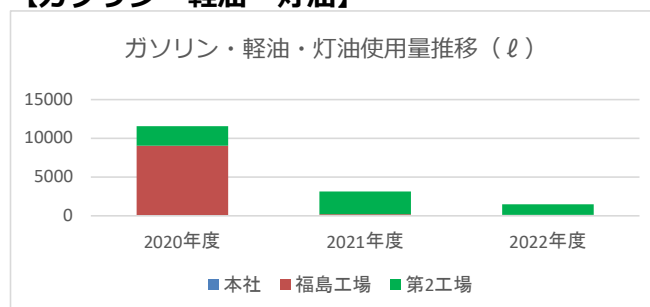


■2020年8月から福島工場の稼働停止により電力消費が減った。

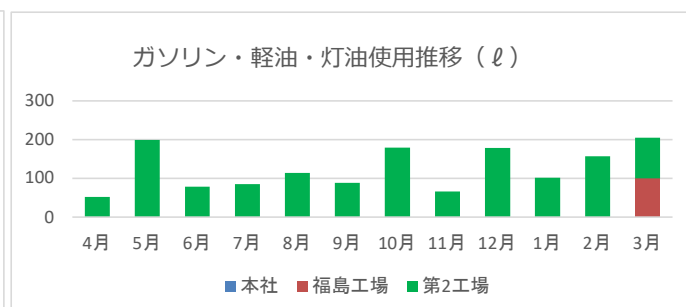


■夏季の気温上昇（6月～9月）により、エアコンの電力消費が前年度比15%増加してしまった。

【ガソリン・軽油・灯油】

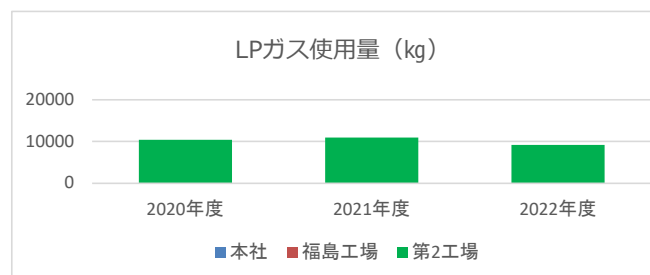


■2021年4月～納品を業務委託により、トラックの燃料使用量が減少しました。

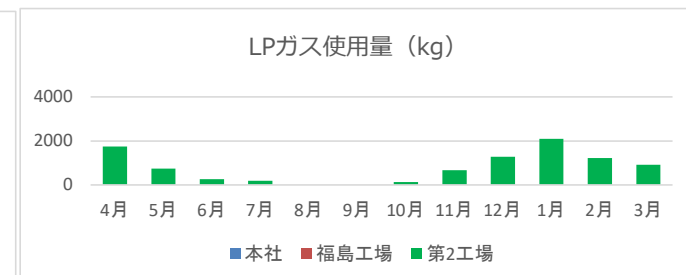


■福島工場 暖房ボイラー（灯油）使用量が、一部テスト加工の稼働で増加しました。

【LPガス使用量】



■LPガスは第2工場 1棟の暖房（ボイラー）に使用しております。



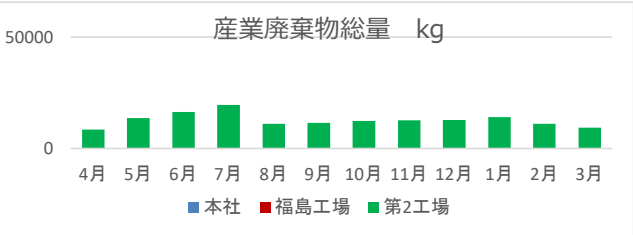
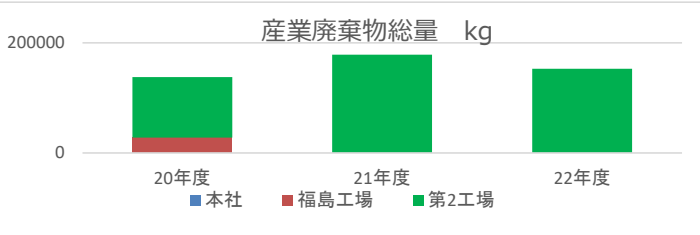
4-2. 産業廃棄物排出量・水使用量・化学物質の削減比較

項 目	単位	100%以上 60%以上 60%未満		
		目標値	実績	達成度
産業廃棄物総排出量	kg	135,125	153,115	88% →
原単位	kg/万個	前年度実績 14.7	14.1	前年比 104% ↑
リサイクル率	%	前年度実績 21.0	46.5	前年比 221% ↑
水使用量	m³	1,908	1,996	96% →
原単位	m³/万個	前年度実績 0.16	0.18	前年比 91% →
化学物質購入量	kg	369	257	144% ↑

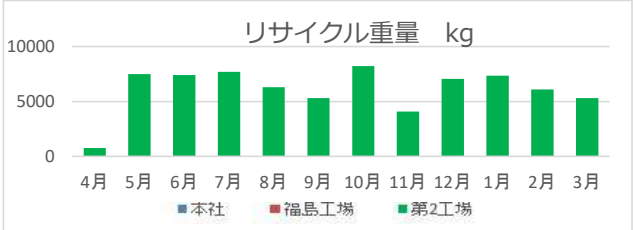
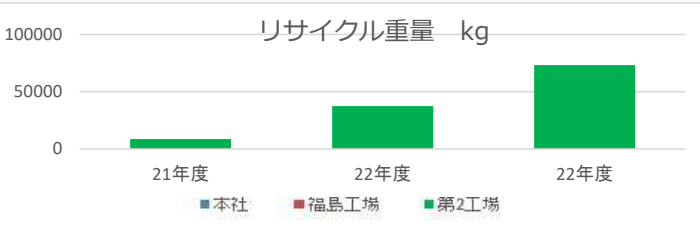
2020年度～2022年度実績

2022年度 月別推移

【産業廃棄物の総排出量】

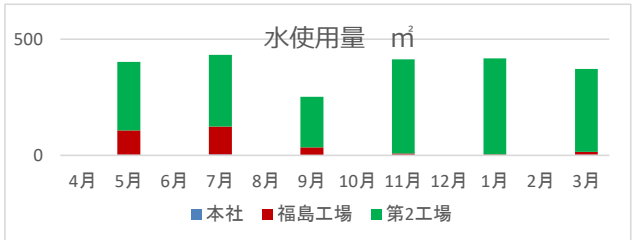
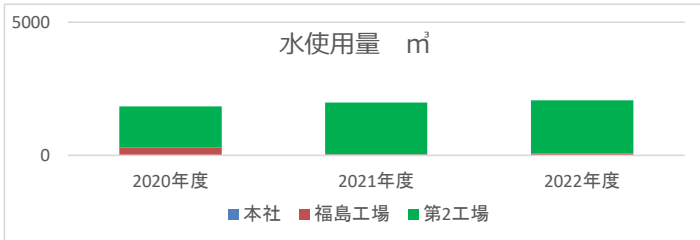


- 22年 廃プラ埋立て処分を全てRPF（固形燃料）へ切替えしました。
- 前年比 生産数9%減で総排出量も減少した。



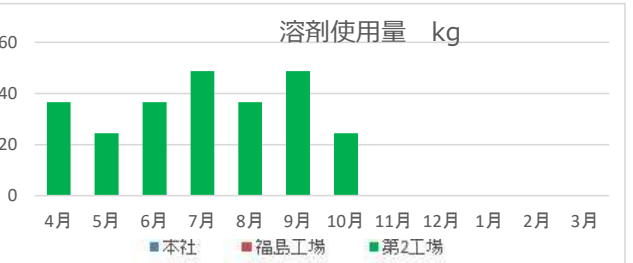
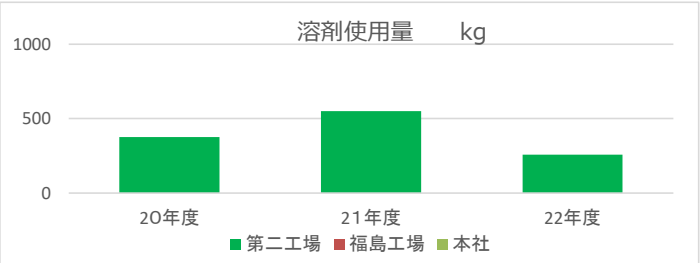
- PTFEリサイクルの拡大によりリサイクル率が向上した。
- OA機器・二次電池など新たにリサイクル推進を行った。

【水使用量】



- 22年度から水道の検針メータの監視を始めました。
- 温水器の逃し弁操の漏水発見 ➡ 2月
対策：逃し弁定期点検を追加した。

【化学物質使用量】



- 22年度 溶剤再生装置の導入により、11月移行購入量が削減でき大幅に目標達成できました。
- 溶剤再生機運用開始により、廃液再利用により購入はを削減することができました。

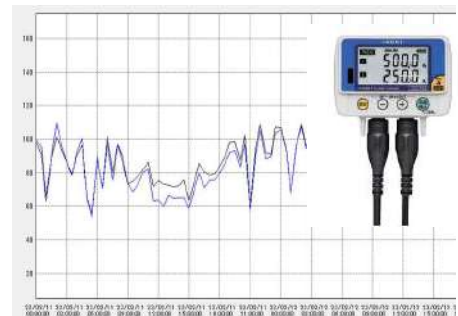
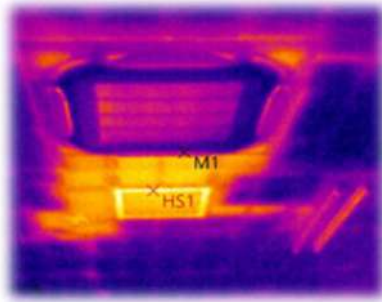
5-1. 省エネ節電対策取り組み



(1) エアコン効率運転 【新規】 (環境・品質係)

食堂に空調効率運転のコンティニューム設置し冷暖房の消費電力を15%削減をしました。

【コンティニューム設置】 → 【サーモグラフィ検証】 → 【消費電力測定による効果】



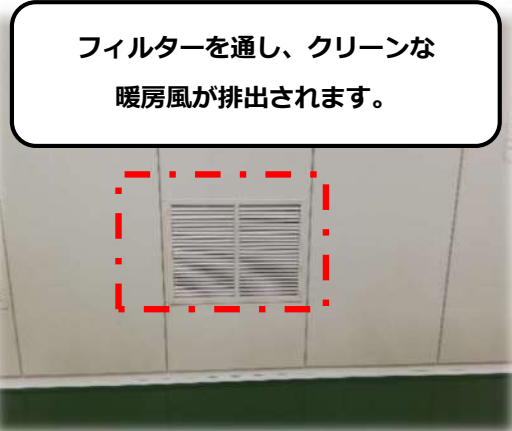
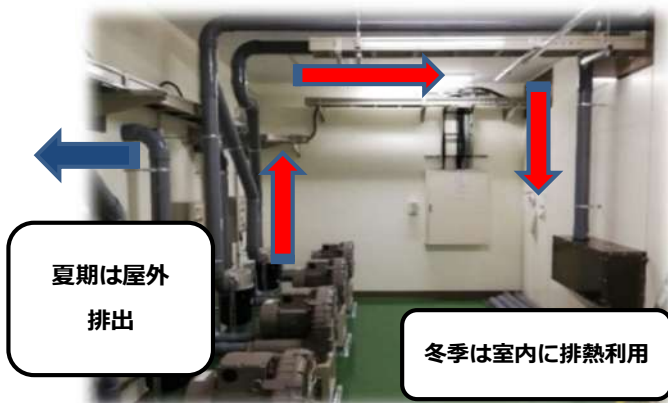
(2) 節電対取り組み 【新規】

a. 排熱利用 【新規チャレンジ】 (生産技術係)

【集塵機室内の暖房補助装置開発】



【ダクトから約40℃の排熱を室内】



b. ムダ排除 自動販売機・冷蔵庫の利用台数適正化

(安全・人事係)

【自動販売機 2台返却】

【冷蔵庫2台利用中止】



5-2 自然エネルギー活用 太陽光発電実績

(1) 太陽光発電システム利用

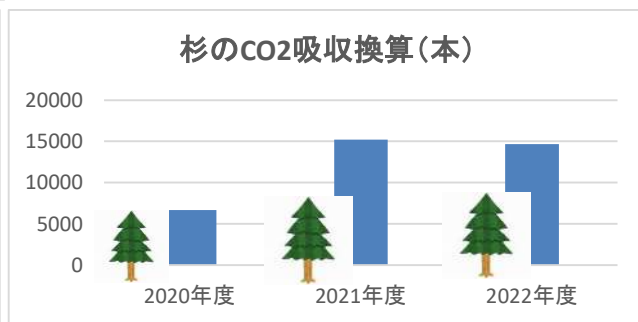
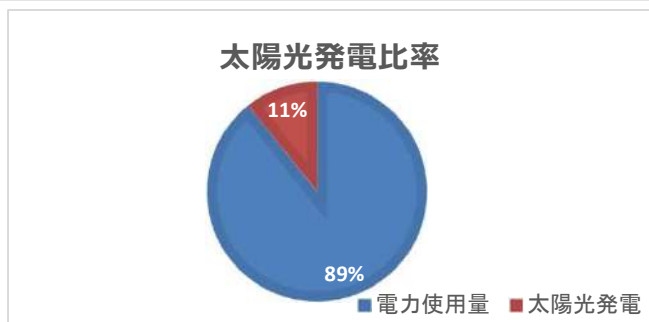
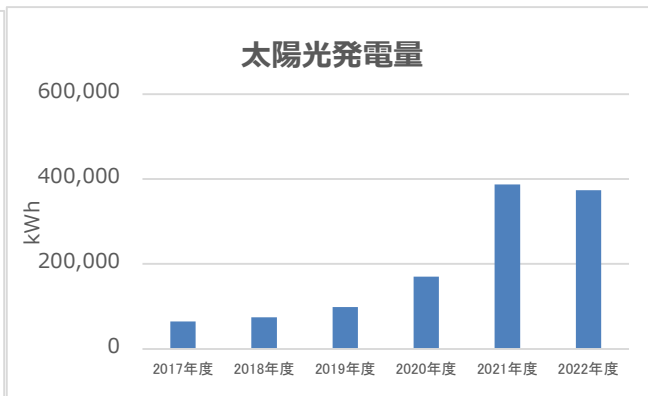
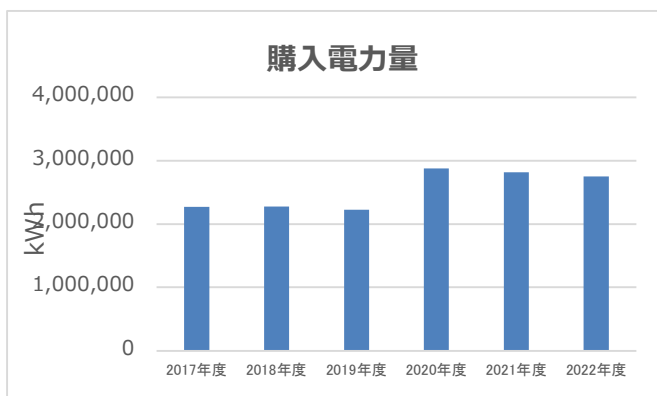


太陽光発電システム増設 21.45kw
2022年3月 太陽光パネル設置完了
2023年6月 発電開始予定

① 購入電力量と太陽光発電量の推移

2022年度は、331437kWhを発電。(工場稼働33日分に相当)

二酸化炭素削減量：117,529kg-CO₂/年 (変換係数0.3145kg-CO₂/1kWh)



※杉の木 CO₂吸収 14kg/年で計算

(1) 日常点検 (生産技術係)

太陽光監視システムにて日々の発電量を監視し、異常時の早期発見に努めております。



5-3. ガソリン使用量の削減



(1) 交通安全点検（安全衛生委員会）

交通安全週間に構内乗り入れ速度、シートベルト、ゆとり出勤などの点検エコドライブ（急発進・急停止、急ハンドル）を呼び掛けしております。



(2) 在宅勤務推奨【新規（安全・人事係 業務・システム係）

BCP一環として在宅勤務インフラ（WEB会議・勤怠・購入システム導入・ノートPC切替）整備し、在宅勤務を推進してきました。



<在宅勤務導入の目的>

・緊急事態による出勤や災害等により通勤困難な場合でも業務を継続し事業継続性を向上させる

5-4. 水使用量の削減



(1) 節水活動（環境・品質係）

水道蛇口水量の調整による節水や水使用量把握（漏水などの異常発見）するため、水道メータを日々に検針しました。

【水量調整による節水】



【使用量の把握・水道検針】



5-5. 産業廃棄物ミニマム化



(1) 廃プラの埋め立て削減

(製造課 環境・品質係)

【廃プラ埋め立て処分】

22年度 0 t

変更

【RPF 固形燃料】

22年度 6.9 t/年



製紙会社様 RPF使用



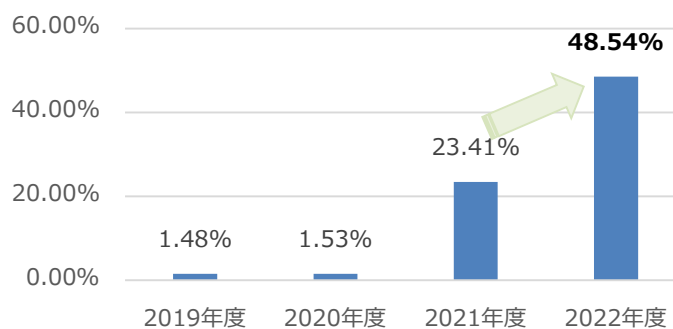
(2) 廃プラのPTFE材リサイクル拡大

(製造課 環境・品質係)

PTFE種類毎の分別回収



リサイクル率推移



(3) リサイクル推進

(システム係・生産技術係)

金属類・古紙など種類ごとに分別しリサイクル推進に努めております。

【金属類・OA機器・古紙等】

【機密情報漏洩対策】

廃却OA類

有価物回収

指定物：パソコン

【回収できるもの】

- ①パソコン本体
- ②ディスプレイ
- ③プリンタ
- ④HDD・SSD
- ⑤ケーブル類

記憶媒体（HDD）はデータを消去後、お引き取りして頂き業者より廃棄証明書を発行して頂いております。

5-6.化学物質使用量削減



(1) 溶剤再生機の導入 (新規 製造課・環境・品質係)

【溶剤再生機】

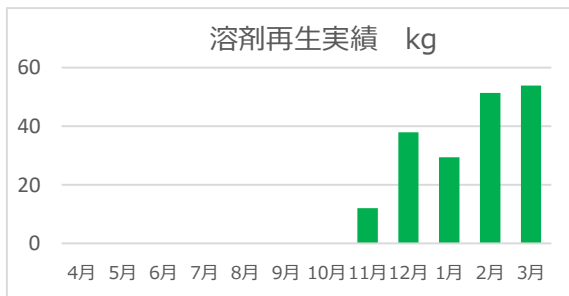


項目	【再生前廃液】	【再生後】
色合い	茶色（新液：無色透明）	無色透明
物性	—	新液と同等
溶剤写真		

※バッチ式 自動運転で20ℓ再生で約1時間終了します。

(2) 溶剤購入と再生実績

購入実績 再生品の再利用により、購入実績△84kg削減できました。



5-7.防災訓練・教育



安達地方消防様に派遣していただき、総合防災訓練（通報訓練・消火訓練）を行いました。

【通報・初期消火訓練】



【避難報告】



【消火訓練】



AED取り扱い及教育



2021年度のAEDを向上に1台設置し、AEDの取り扱い方法（反応の確認、呼吸の確認等）教育実施しております。 23年3月現在 161名教育完了

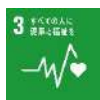
【AED設置】



【教育・訓練人形で体験】



5-8. グリーン活動



(1) グリーン活動

環境・品質係内では年間計画を立て、様々な環境取り組みを行いました。ミニトマト栽培は以外に難しいでしたが何とか収穫ができ、サラダの日に社員の皆様に食べていただきました。

4月 花植 マリゴールド



I I D A ロゴの完成



5月 トマト栽培



7月 トマト収穫 サラダの日



6月 草刈り整備



9月 草刈り整備



5-9.貢献活動・表彰



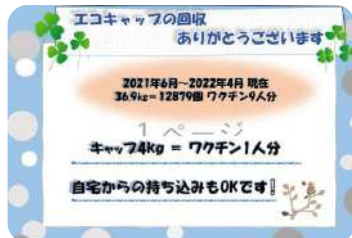
サイコー様（仙台）のエコキャップ運動に2021年6月から22ヵ月連続参加しております。

2023年度実績 72kg（ペットボトルキャップ約3万個）⇒ポリオワクチン18本分の寄付

【回収スタート】

【目標設定・ポスター掲示】

【家庭内でも参加】



表彰



■福島県ワーク・ライフ・バランス賞 令和5年1月24日

令和4年度福島県ワーク・ライフ・バランス大賞表彰式

令和5年1月24日（火曜日）、県庁で表彰式が行われました。



男女を問わず連続5日以上の子育ち休業を取得するようルール化し、2021年度以降、男女とも100%取得を達成。またコロナ禍で親睦を深めるきっかけを掴みにくい従業員同士のコミュニケーション創出の一助として、従に消防団活動に参加することとなった場合、その時間は通常出勤として取り扱い、支障なく参加できるよう後押し。消防団活動に参加することとなった場合、その時間は通常出勤として取り扱い、支障なく参加できるよう後押し。これらのユニークで特徴的な取組が評価された。

■ふくいろキラリプロジェクト10周年記念「地域産業貢献賞」令和5年2月3日

産学官連携による技術改善や製品開発などを積極的に行い、地域産業の復興・振興に貢献する企業が対象で10周年記念として受賞を頂きました。

【ふくいろキラリプロジェクト 2016】



本宮市HP掲載していただきました。

<https://www.city.motomiya.lg.jp/site/kigyo/iidaseisakujiyo202302.html>

6.これからの環境目標

環境方針	環境目標	単位	年度	実績			達成目標	中期目標	
		万個	生産数	10,373	12,129	11,054	11,187		
二酸化炭素の 排出量削減	二酸化炭素の 排出量削減	t	目標	1,538	1,528	1,294	1,263	1,232	1,207
			削減率	—	—	△17%	△19%	△21%	△23%
			実績	1,559	1,327	1,340		—	—
			原単位	0.15	0.109	0.12	0.11	—	—
			達成状況	未達成	達成	未達成			
	電力使用量の 削減	kwh	目標	—	—	—	2,515,835	—	—
			削減率	—	—	—		—	—
			実績	2,879,961	2,814,984	2,865,398		—	—
			原単位 kwh/万個	278	232	259	225	—	—
			達成状況	達成	達成	達成			
廃棄物の排出量削減	廃棄物等 総排出量削減	k g	目標	178,977	136,504	135,125	133,747	132,368	130,989
			削減率	—	—	△2%	△3%	△4%	△5%
			実績	137,883	178,623	153,115		—	—
			原単位 kg/万個	13	15	14	12	—	—
			達成状況	達成	未達成	未達成		—	—
	廃棄物の リサイクル向 上	%	目標	—	—	—	50%	53%	55%
			向上率	—	—	—	54%	—	—
			実績	9.2%	21%	46.5%		—	—
			達成状況	—	—	—		—	—
			達成率	—	—	—		—	—
総排水量の削減	水使用量の削減	m	目標	1,947	1,927	1,908	1,888	1,869	1,883
			削減率	—	—	△2%	△3%	△4%	△4%
			実績	1,830	1,982	1,996		—	—
			原単位 m/万個	0.18	0.16	0.18	0.17	—	—
			達成状況	達成	未達成	未達成		—	—
化学物質の 削減及び、適 正管理	化学物質使用 量の 適正管理	k g	目標	377	373	369	253	249	245
			削減率	—	—	△2%	△33	△34	△35
			実績	377	549	257	253	249	245
			達成状況	達成	未達成	達成		—	—

※2020年8月に福島工場から第2工場へ生産設備を移管した為、2020年度の実績から福島工場、第2工場、本社を合算見直しています。

※二酸化炭素の排出量目標について、2021年度に大幅に目標を達成していることから、削減率目標の見直しを行っています。

※2022年度より、生産変動によって達成目標に左右されるため、総量型目標と原単位で評価します。

※2023年度より、産業廃棄物総排出量削減の達成目標にリサイクル率の目標を追加しました。

※化学物質使用量目標について、2022年度に大幅に目標達成していることから、削減率目標の見直しを行っております。

6-1. これからの取組み

施 策			計画	対象	責任部門	次年度の取組内容
二酸化炭素 排出量の削減	1	コンプレッサー効率運転	通年	第2工場	加工技術課	・計画に沿って定期的点検及び整備 （オイル交換、フィルタ交換、清掃等）実施 ・空気圧縮機のエア漏れ点検(作業場、生産設備等)実施 ・コンプレッサー圧力設定見直しによる省エネ
	2	エアコン、空調の効率向上	通年	第2工場	各課	・各製造フロアーの空調フィルタの定期清掃（各部署のIPJ） ・1棟空調老朽化更新 ・トップエコ導入検討（3棟設置）
	3	電気・ガソリンの使用量削減	通年	第2工場	各課	・節電活動の推進（夏季の温水器利用停止・こまめ電源消灯 空調の温度設定・待機電力削減） ・社有車の運行管理とエコドライブ推進
廃棄物の 排出量削減	4	一般廃棄物の削減	通年	第2工場	各課	・リサイクル分別回収の継続実施
	5	産業廃棄物の削減	通年	第2工場	各課	・PTFE材のリサイクル化（対象材質の拡大）により、 埋立処分ゼロに向け活動を継続 ・改善プロジェクト活動による製品廃棄量削減
水使用量 の削減	6	水使用量の削減	通年	第2工場	各課	・水道メータ検針による異常早期発見 ・洗面・食堂・トイレ等の水漏れを定期的に点検 ・節水の啓蒙活動継続
廃却金額の削減	7	製品廃却金額の削減	通年	第2工場	製造課 保証課	・製品の不適合率低減活動にて不良品の廃却重量削減に 取り組む
化学物質 使用量の削減	8	溶剤の使用量削減	通年	第2工場	製造課	・使用済み溶剤の再生継続及び使用量の削減に取り組む
その他	9	緊急事態対応訓練	通年	第2工場	安全衛生 委員会	・消防計画書により実施。（安全衛生委員会活動による）
	10	地域社会貢献活動	通年	福島工場 第2工場	加工技術課 業務課	・美化運動、構内・構外の側溝点検と清掃・草刈り・剪定実施

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・ 自社の環境関連法規の違反はありませんでした。

法規制等の名称	順守事項	遵守事項
廃棄物処理法	委託基準（契約書・運搬許可証） マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
浄化槽法	保守点検実施・法定点検実施	遵法
消防法	消防設備点検実施・総合防災訓練実施	遵法
フロン排出抑制法	簡易点検実施	遵法

- ・ 近隣からの苦情、関係機関からの指摘、及び訴訟等はありませんでした。

8. 代表者による全体評価と見直し

（1）全体評価

- ①長引くコロナ禍の中、社員の体調（発熱・咳・倦怠感）出勤停止、社内換気実施、リモートワークの環境整備、時差出勤の体制を構築し運用し、感染対策を行いました。
 - ②二酸化炭素排出量削減目標は、電力消費が夏季時期の温度上昇、コロナ禍対策によって増加し目標達成することができませんでしたが、省エネ活動を通じて社員の削減に向けた意識が向上した。
 - ③産業廃棄物の総排出量削減目標も達成することができませんでしたが、廃プラの埋立てからRPFに移行でき、リサイクル率について49.5%まで上げることができた。
- ・ 今後益々、要求が上がる事は当然として、企業活動を継続するには、計画的な管理をしっかりと、環境負荷の削減が必須なので、達成に向けた計画策定ができ、それに沿った実行で実績を残すことができてきた。

（2）全体評価

- ①環境負荷の取組
環境負荷の削減については、削減可能な自然エネルギー活用（太陽光発電・風力発電など）省エネ・リサイクル拡大は引き続き取り組んで下さい。
- ②審査員からの指摘・助言事項への対応
審査員からの推奨事項は再発しないように対策・定期点検を実施してください。
- ③実施体制
経営資源を活用しながら 組織を効率よく管理・運営してください
事務局で見直しが必要と考えられるものについては環境経営マニュアル、環境経営レポートに反映させてください。
- ④環境関連法規の遵守
環境法令については改正の有無等の適宜チェックをお願いします。

2023年5月11日

(有)飯田製作所

代表取締役 社長 野渡 透一